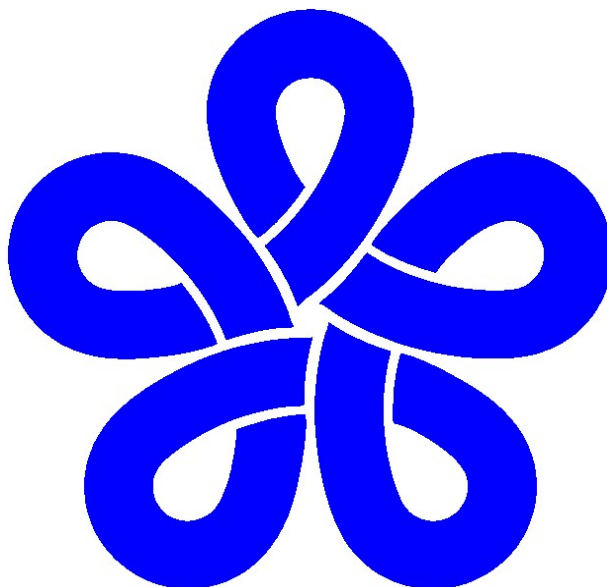


令和6年8月  
福岡県・ニューサウスウェールズ州  
交流促進訪問団  
報告書



令和6年8月3日～8日  
福岡県議会

## 福岡県・ニューサウスウェールズ州交流促進訪問団 報告書

### 【全体概要】

本年は、第二次世界大戦中、ニューサウスウェールズ州のカウラで発生した日本人捕虜集団脱走から80周年の節目に当たることから、現地で開催される記念慰霊式典に参加するため、知事からの参加要請に基づき県議会として訪問団に参加したもの。(※)

また、本県は水素やスポーツの分野でニューサウスウェールズ州と積極的に交流を行っており、今後の水素戦略を一層推進するため、州政府関係者や水素関連企業で特に先進的な2社を訪問し、意見交換等を実施。

併せて、旅行業者やメディア、学校関係者を集めた旅行セミナーを行い、本県の魅力をPRすることで、インバウンドの誘客を促進と、教育旅行先としてのポテンシャルを示した。

※令和6年4月19日 オーストラリア・カウラ市長による議会表敬

<https://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/site/topics/gaiyou060419.html>

### 【日程】

令和6年8月3日(土)～8月8日(木)

### 【訪問団】

福岡県知事	服部 誠太郎
福岡県議会議長	香原 勝司
自民党県議団代表	藏内 勇夫
民主県政県議団会長代理	原竹 岩海
新政会会長代理	堀 大助
自民党県議団	樋口 明
自民党県議団	野原 隆士
自民党県議団	浦 伊三夫
自民党県議団	笠 和彦
自民党県議団	花田 尚彦
自民党県議団	小緑 貴吏

随行者：国際交流局長 ほか 3名

秘書室室長補佐

議会事務局総務課課長補佐 ほか2名

自治体国際化協会職員

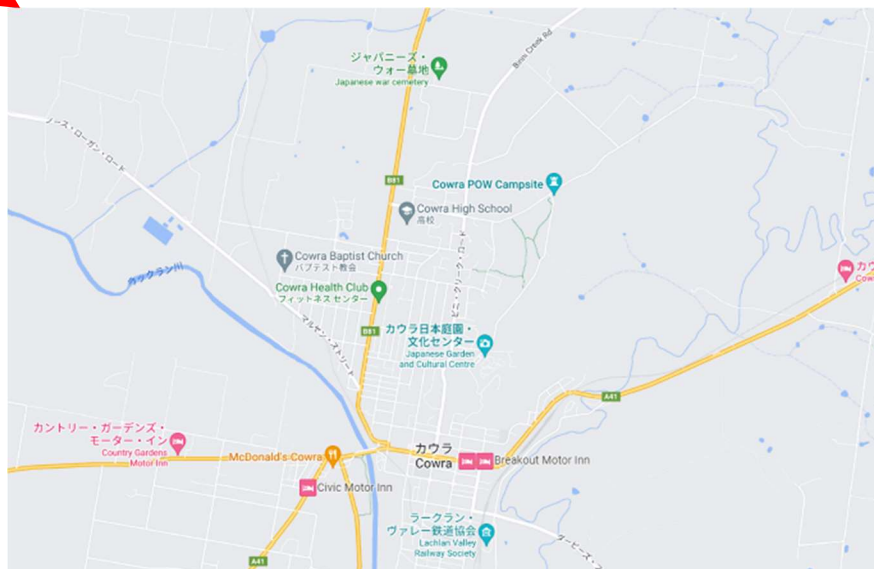
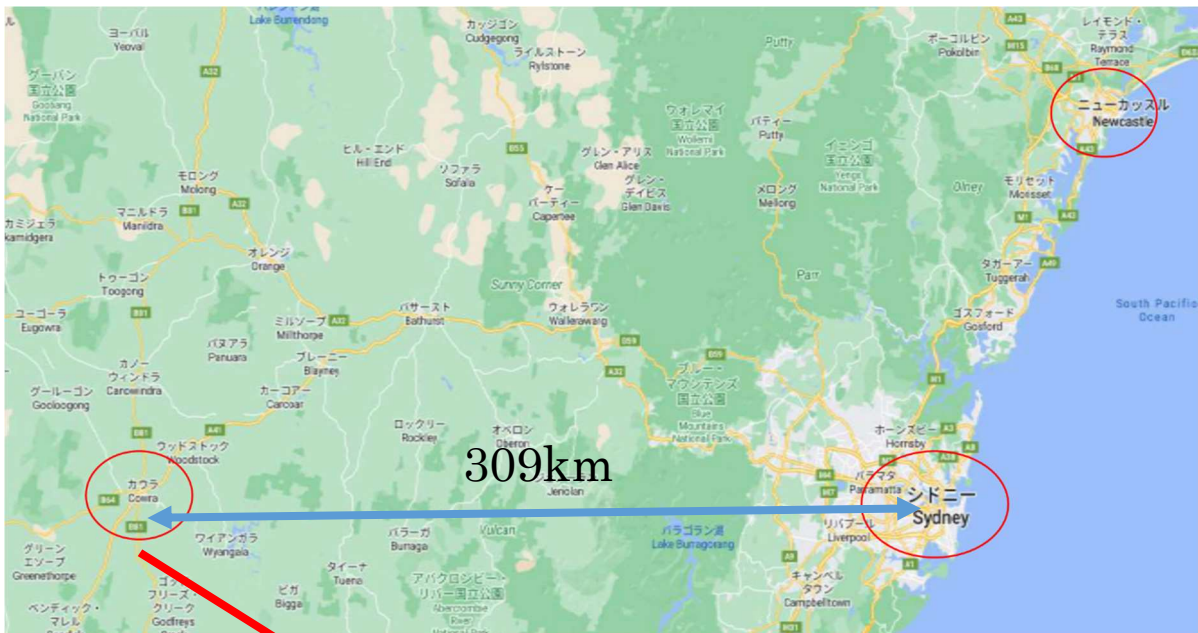
## 【カウラ市概要】

オーストラリアのニューサウスウェールズ州にある町（シドニーから約320km）

人口：約1万人

面積：約2,752km<sup>2</sup>

産業：遊牧、農業、ワイン



【内容】

8月4日(日)

サブロー・ナガクラ・パーク訪問 (17:30~18:00)

【施設概要】

戦時中は日本陸軍として従軍した経験を持つ、九州電力元会長の永倉三郎氏がカウラ市を訪問された際、オーストラリア人だけでなく、敵国であった日本人の戦死者墓地がカウラ市民により大切に維持・保存されていることに感銘を受け、自らの資金を拠出して永倉財団を設立し、戦争捕虜キャンプ地に近い場所に作った公園。

永倉財団の永倉成二会長、ニック・ファー・ジョーンズ理事の案内で、ナガクラパークの概要や歴史等の説明を受けた。



(ニック氏を交えて歓談)



(パーク概要の説明)



(パークにて)

## 80周年記念式典カウラ市長主催夕食会（18：30～20：45）

カウラ市長主催のカウラ日本人捕虜集団脱走80周年記念慰霊式典夕食会に出席。当式典は、本年4月に福岡を訪問された、カウラ市のルース・フェイガン市長、ビル・ウェスト前市長からの招待に基づくもので、集団脱走での両国の犠牲者を悼む大切な式典。

参加者全員による両国の国歌斉唱で会が始まり、ルース・フェイガン市長、マーガレット・ビズリー州総督の挨拶がなされた。日本からは穂坂外務大臣政務官をはじめ、防衛省関係者や上越市など関係自治体、福岡日豪協会など多くの日本人が参加。

会場ではカウラ集団脱走と捕虜収容所についての概略をまとめた資料が配布され、戦争による犠牲者を偲ぶとともに、交流を図った。



（州総督、カウラ市長）



（オーストラリア、日本両国歌斉唱）

深夜には、脱走事件のあった時間にあわせ、捕虜収容所跡地において、事件を再現するイベントが開催された。

冬のオーストラリアにおいて、カウラは内陸地ということもあり、事件のあった午前1時過ぎは全身が凍える寒さであった。「死して虜囚の辱めを受けない」という当時の考え方による脱走といえ、知らぬ土地で土地勘もない状況での脱走は、仮に成功してもその先への展望があるわけもない。現代人から見れば後先を考えない行動にしか見えないものであっても、戦争時の教育・思想を考えるのには十分すぎる経験となった。

8月5日(月)

オーストラリア・日本人戦争墓地献花式 (9:30~11:00)

#### ◇日本人戦争墓地 (カウラ)

1964年11月22日開設。オーストラリア戦没者墓地の隣に位置し、日本政府がオーストラリア政府から土地の永久借地権を取得。メルボルン大学で教鞭をとった、日本人建築家の由良滋氏が墓地の入り口と慰霊スペースを設計。全ての日本人戦没者の墓がオーストラリア各地からカウラに移された。

#### ◇カウラ日本人戦争墓地の歴史

太平洋戦争中、多くの日本人が捕虜または敵国人としてオーストラリアに投獄された。戦争初期の小規模なものから始まり、捕虜の総数は1945年には5000人以上に達した。1946年に生存者が解放されるまで、オーストラリアでは500人以上が死亡。捕虜としては、1944年8月のカウラ脱走事件での235名の死者が最大の犠牲者数であり、カウラのオーストラリア戦没者墓地の隣の敷地に埋葬された。抑留者や他の捕虜の死因はほとんどが病気で、死者は近くの墓地に埋葬された。

日本人戦没者墓問題は、1950年代に日本とオーストラリアの両政府にとって懸念事項となった。日本大使館は1955年に日本人の墓の調査を開始し、遺骨の本国送還の可能性を模索した。1959年にオーストラリアに戦没者墓地を設立することが最終的に決定され、その後1962年9月にカウラが墓地の場所として選ばれた。

カウラ住民と日本人との出会いは、1943年に日本人捕虜がカウラ捕虜収容所に移送されたときに始まった。1944年8月の大規模脱走事件は住民に大きな脅威を与えたが、戦後、カウラの地元住民により墓地の維持活動が行われている。

カウラ日本人戦争墓地に埋葬されている人々の慰霊祭は、毎年8月に定期的に墓地で開催されている。金属製墓碑には、それぞれ氏名(ローマ字)と死亡年月日が刻まれ、享年が記されている場合もある。しかし、例外的な場合を除いて、墓に眠っている人々の経歴や死亡原因はほとんど知られていない。

(在オーストラリア日本大使館 カウラ日本人墓地データベースより引用)



## 【概要】

カウラ市のオーストラリア人戦没者墓地及び日本人墓地において献花式が執り行われ、服部誠太郎知事、香原勝司議長並びに藏内勇夫代表が、先の戦争で亡くなった両国の戦没者やカウラ脱走事件で亡くなった日本兵捕虜の慰霊のため同様に献花を行った。



(オーストラリア人墓地での献花)



(日本人墓地での献花)



本県以外の地方自治体をはじめ政府関係者など多くの日本人が参列。美しく整備され、オーストラリア、日本の区別なく祀られた墓地に、カウラの人々の平和への思いが感じられた。

May Weir Memorial Mornig Tea (11:30~12:30)

#### ◇カウラ日本庭園・文化センター概要

1978年(昭和53年)に日豪友好のシンボルとして「カウラ日本庭園・文化センター」が完成。日本庭園は「回遊式庭園」で、日本を代表する造園家として海外でも広く活躍した中島健(1914-2000年)によって設計された。敷地面積は約5ヘクタールで、南半球では最も面積の広い日本庭園である。庭園内にはさまざまな種類の桜も植えられており、9月中旬から10月中旬頃にかけて桜の鑑賞もできる。また、同時期には毎年「カウラ桜祭り」が開催されている。

#### ◇Mrs Weir' s morning teas/メイ・ウィアー夫人と脱走日本人捕虜

1944年8月5日土曜日の朝、メイ・ウィアー夫人は、夜中に大規模な脱走が起きたカウラの捕虜収容所から約6キロ離れたローズデールの自宅農家の農場で囚人服を着た3人の日本兵捕虜と遭遇。彼女の夫は息子とともに農場へ働きに出て留守であり、自宅には夫人と娘の2人だけであったが、夫人は日本人捕虜たちを自宅の庭に招き入れ、彼らにスコーンとお茶を提供した。日本人捕虜たちは農場を出たところで駆け付けたオーストラリア兵士らに捕らえられたが、その前に夫人のもてなしに感謝していた。

1週間後、ウィアー夫人の息子が外出した際、脱走した別の日本人捕虜に遭遇。間もなく、500人ほどの兵士と警官が駆け付け、最終的に小川の土手に1週間隠れていた2人の日本人捕虜が捕らえられた。この2人が連行される際、ウィアー夫人は、寝る場所も食料もないまま1週間も寒い中で過ごしている彼らを気の毒に思い、当局に対し、「連行する前に彼らにスコーンとお茶を与えるべきだ」と主張し、最初の日本人捕虜同様に自宅の庭でもてなした。

1984年のカウラ日本人捕虜集団脱走から40年目に、ウィアー夫人に最初にお茶を与えられた3人の日本人捕虜のうちの1人であるカワグチ氏がカウラを訪れた。彼はウィアー夫人にもう一度会いたいと思っていたが、彼女はすでに亡くなっていた。夫人の娘と息子が彼を自宅農家に招いた。数年後、夫人の娘は日本に招待され、滞在中、神戸のカワグチ氏とその家族を訪問し、そこで温かく迎えられた。

戦争墓地献花式の後、カウラ市に1978年（昭和53年）に日豪友好のシンボルとして設置された「カウラ日本庭園・文化センター」において開催されたメイ・ウィアー・メモリアル・モーニング・ティーに訪問団全員で参加。日本人の脱走兵を平等な人間として扱い助けたメイ・ウィアー夫人の逸話に基づき、当時と同じくスコーンと紅茶が振舞われ、今日まで続く友好関係を次世代に伝える重要性を再認識した。



この訪問で、福岡県や県議会も近隣諸国との関係を重視し、多くの予算を投じ多くの時間を割いてでも、世界大戦を経験した国はもとより、地方自治体でもこのような平和外交を積極的に推し進めていくことも大変重要な政策、取り組みであると考えている。

県議会は、近隣諸国との友好関係を構築すべく、様々な都市・地域との友好議員連盟を構成し、友好交流はもとより、それぞれの国・地域の課題解決に協力できるよう、相手国や地方行政、各種団体との交流を深め、互いに人材交流を重ねることで信頼関係を深めていく必要がある。

## <参考>

### カウラ日本人捕虜集団脱走事件

第二次世界大戦時の1944年8月5日に、オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州カウラで起こった日本軍捕虜脱走事件。

捕虜収容所の脱走事件としては、史上最多の人数（日本人収容者数1,104名の内、545名以上）と見られる。死者数235名（オーストラリア人4名、日本人231名）、日本人負傷者数108名。オーストラリア当局はジュネーブ条約（1929年）を順守したため、捕虜たちは収容所での日常生活には不満はなかった。それにもかかわらず、多くはその状況に甘んじてはいけなと感じており、結果的に脱走が発生した。脱走を実行するべきかどうかの投票では、賛成票が大多数の結果となった。

1944年8月5日の未明、突撃ラッパとともに脱走が始まった。宿舎に火が放たれ、大勢が収容所を囲む鉄条網柵に向かって殺到した。オーストラリア人監視兵は銃撃で対抗し、多くの捕虜が射殺された。収容所外に逃れた捕虜は、その後捕らえられて連れ戻された。脱走兵の中には、農場に逃げ込んだ際、農家の婦人にお茶とスコーンを振舞われ、平等な人間として暖かい扱いを受けたものもあり、戦後も交流が続いている。

この事件の結果、4名のオーストラリア兵と235名の日本人捕虜が死亡した。死亡した捕虜はオーストラリア戦争墓地に隣接した場所に埋葬された。生き残った捕虜たちはハイ収容所とマーチソン収容所に移送された後、1946年2月と3月に日本に送還された。

戦後、オーストラリアでは、日本兵も等しく墓地に埋葬され、毎年、慰霊が行われている。

この事件は、オーストラリアでは誰もが知る事件であるが、日本では教科書でしか知られなかった。日本テレビが、2008年7月にドキュメンタリードラマ「あの日、ぼくらの命はトイレトペーパーより軽かった」として放送することで知らしめた。

当時の考え方、人々の葛藤がよくあらわされている作品。

シドニー福岡県人会との意見交換会 (19:00~22:00)

◇シドニー福岡県人会

設立：2015年3月に設立

会員数：約80名

今回の意見交換会には14名が参加。藏内代表は「県人会の皆様との絆があってこそ、オーストラリアとの交流が今まで続いてきたと思う。この絆をこれからもしっかりと続けていくことが、我々のこれからの使命である。服部知事とともに我々県議会も一緒になって、しっかりと福岡県人会の皆さんと福岡やオーストラリア、シドニー、カウラ、様々な地域での交流を続けて参りたい。」と挨拶した。

香原議長は、「ニューサウスウェールズ州とは、水素はもとより青少年、スポーツ分野で交流を図っている。ワンヘルスとスポーツをしっかりと組み合わせ、世界にワンヘルスを広げて参りたい」と挨拶した。

その後、県人会の皆様と、オーストラリアの現状やワーキングホリデーの問題点などについて様々な意見交換が行われた。特に、ワーキングホリデーは本来英語習得や国際交流など自己研鑽を目的として行われてきたものだったが、近年は、「シドニーは時給が高いから」という理由だけで、英語もできず、何の準備もせず渡航するため就業できず困窮しているという現状を伺い、教育の在り方について改めて考えさせられた。



(香原議長挨拶)



(記念品贈呈)



(原竹岩海代表代理挨拶)



(県人会の皆様と)

8月6日(火)

セントラル・シドニー・インテンシブ・イングリッシュ・ハイスクール訪問 (9:30~)

#### ◇施設概要

ニューサウスウェールズ州教育省が運営する英語教育のための高校（日本の中学から高校に相当）。

同校では、12歳以上の生徒、新しく移住した永住者、一時滞在者、留学生を対象に、集中的な英語学習プログラムを提供している。また、文化的及び言語的に多様な保護者コミュニティに向けた定住支援およびパートナーシッププログラムを提供。

バイリンガルのスタッフが、生徒の学習と保護者プログラムをサポート。この学校のモットーである「調和と進歩」は、生徒の回復力と達成度を高めるために設計された、積極的に包括的な教育および福祉プログラムを反映している。

同校に通う生徒は、英語を母語としない100か国以上から集まっており、言語、習慣、信仰も多種多様。彼らは学校で15~50週間勉強した後、ほとんどの生徒が学校証明書または高等学校証明書を取得するため、他の公立高校に転校している。

積極的な移民受け入れにより多国籍化が非常に進んでいる豪州において、現在、国民のおよそ半数が外国生まれか親が海外出身者であり、第一言語が英語ではない子どもも多い。学校現場においては、子どもの英語能力の差が大きく、それが学力格差にもつながっていることから、いかにして全ての子どもの英語能力を向上させるかが大きな課題となっている。

NSW州では州内の州立高校(日本の中学・高校に相当)15か所にIntensive English Center (IEC)を、また1か所のIntensive English High School(IEHS)を設置し、高校(日本の中学・高校に相当)に入学する12歳以上を対象に、通常の授業についていけるだけの英語能力向上をサポートしている。移民だけでなく、難民や留学生もIECで英語を学ぶことができる。

#### ◇IEC及びIEHSの特徴

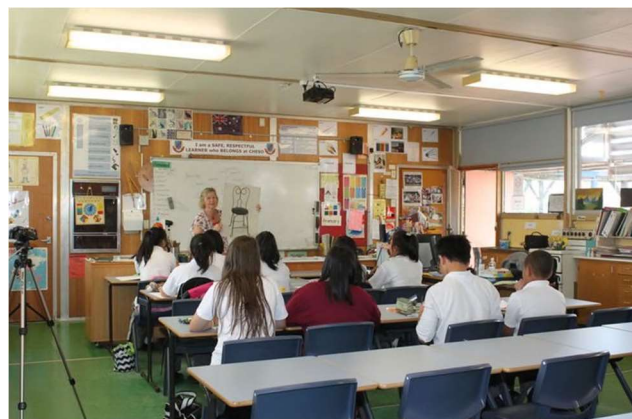
- ・ 同年齢、同程度の英語力の生徒と一緒に少人数クラス（最大18名）で学習
- ・ 大学で訓練を受けた資格のある英語教師が、数学、科学、歴史、地理などの高校の主要科目の英語レッスンを提供
- ・ 高校移行プログラムにより、高校へのスムーズな移行をサポート
- ・ 提携高校の学校活動に参加可能、全ての学校施設が利用可能
- ・ スクールカウンセラーや福祉サポートを利用可能

#### ◇IEC と IEHS の違い

両者とも提供される教育プログラムは基本的に一緒であるが、IEC がハイスクールの付属教育機関として運営され、ハイスクールの副校長が IEC の責任者となって施設を運営し教育プログラムを管理するのに対し、IEHS は一般のハイスクールと同様に独立した教育施設であり、校長が総責任者として施設を運営し教育プログラムを管理する。

IEC は 15 か所、IEHS は 1 か所（セントラル・シドニー・インテンシブ・イングリッシュ・ハイスクール）設置されている。

（Central Sydney intensive English high school 及び JETRO HP から引用）



#### 【視察内容】

ニューサウスウェールズ州教育省が運営する英語教育のための高校を訪問。同校では 12 歳以上の生徒、新しく移住した永住者、一時滞在者、留学生を対象に集中的な英語学習プログラムを提供している。保護者コミュニティに向けた定住支援及びパートナーシッププログラムの提供も行っており、多くの留学生が集まる本県においても参考となる事例を伺い、意見交換を行った。

オーストラリアは積極的な移民の受け入れによって多国籍化が進んでいる。われわれ日本人は、留学生に対しての経験はあるが、移民難民に対する知見が少ない。福岡県も、外国人に対する日本語教育は、地域のボランティアの方々に担っていただいている小さなコミュニティでの活動はあるが、こういった学校という形式はない。議会としても議論に活かしていきたい。国際競争力の激化や外国人の受け入れ、グローバル化など、特別委員会でも議論していく必要がある。



(香原議長 挨拶)



(WEB での授業風景見学)



(バウアー校長を囲んで)

## 福岡県観光セミナー・交流会 (11:30～14:00)

オーストラリアからのツーリストをもっと福岡県に誘致する目的から、現地旅行会社、メディア等を集め、本県の観光における魅力を紹介する、福岡県観光セミナー・交流会を開催した。第1部では、旅行ジャーナリスト等から福岡の魅力を紹介するプレゼンテーションを実施。第2部の交流会では八女茶や日本酒、大川組子の体験コーナーを楽しんでいたとともに、旅行会社から、福岡県のバスをはじめとする交通アクセスなどの様々な質問に答えるとともに、県内各地域のPRを行った。

香原議長は、「今日のこの会で、福岡に興味を持ってもらえれば嬉しい。福岡を代表する八女茶や日本酒もありますので、食べることから福岡の魅力を味わっていただけたらと思う」と挨拶した。

参加者と交流する中で、福岡と韓国の船便があるということは、観光において強みではないかとのご意見があった。



(セミナー第1部)



(香原議長 挨拶)



(参加者全員で炭坑節)

## <セミナープレゼンター>

Beth Clarke (ベス・クラーク)

### 【プレゼンター概要】

日本で数年間英語教育に携わり、その間広く日本を旅行した経験を活かして、豪州帰国後は、JTB オーストラリアにて訪日のテイラーメイド商品造成業務を担う。そのほか、社内のオンライン教育担当、訪日商品のプロモーション業務に幅広く携わる。

2023 年度 福岡県観光連盟 豪州レップ事業では、日本観光促進イベント『Japan Road Show』においてプレゼンターを担当。

### 【プレゼン内容】

福岡県のレップ事業者としての立場から、福岡の観光の魅力紹介

Tim Richards (ティム・リチャーズ)

### 【プレゼンター概要】

メルボルン在住のフリーランス作家。著作テーマは、旅行をはじめ、ライフスタイル、アート、科学技術、ペットまで幅広い分野をカバー。鉄道旅行に造詣が深く、関連書籍も複数出版。世界的な旅行情報誌「ロンリープラネット」でも執筆。福岡のプロモーションのため来福し、ESCAPE マガジン誌にて特集記事を掲載した実績あり。

「オーストラリア旅行作家協会」主催の表彰で、これまでに数多く受賞・ノミネートされている。

### 【プレゼン内容】

福岡県への訪問経験を活かし、自らが感じた福岡県の魅力を紹介  
鉄道旅行に造詣が深く、ゲートウェイとしての福岡を紹介

## <司会進行>

阿久津 千佳 (あくつ ちか)

### 【司会概要】

日本大学芸術学部放送学科（アナウンス専攻）卒。

シドニー工科大学 (UTS) 日本語教育準修士課程 修了後は日本にて数社の役員秘書を経験。再び渡豪し、シドニー現地校にて日本語教師として勤務。2005 年より経歴を生かし、シドニーを拠点に日英バイリンガルの司会、ナレーター、プレゼンターとして幅広く活動して

おり、日本の魅力を伝える活動に尽力。

ニューサウスウェールズ州教育省訪問 (14:30～15:00)

ニューサウスウェールズ州教育省を訪問し、同省のマーティン・グラハム副長官（教育、学習、福祉担当）、ティム・マッタラム副長官代理（公立学校担当）と面談し、同日午前中に訪問したセントラル・シドニー・インテンシブ・イングリッシュ・ハイスクールの教育内容にも触れるとともに、教育分野の交流についての意見交換を行った。

香原議長は、「ニューサウスウェールズ州と福岡の歴史を改めて考えるとともに、この歴史を次世代に繋いでいく必要がある。福岡県では、服部知事と県議会がともに、人と動物の健康、そして環境の健全性は一体と捉えて活動するワンヘルスの推進に取り組んでいる。スポーツの交流とワンヘルスを一つにして、これからの若い世代にしっかりと広げていきたいと思っているので、皆様にもご理解いただき、共に進めていただければ嬉しく思う」と挨拶した。



概要説明



記念品交換



NSW 州教育省副長官らと

**ニューサウスウェールズ州産業大臣及びエネルギー環境大臣 表敬訪問**（15:30～16:00）

ニューサウスウェールズ州政府を訪問し、アナラック・チャンシヴオン産業大臣及びペニー・シャープエネルギー環境大臣と面談し、意見交換を行った。

香原議長は、「福岡県ではワンヘルスアプローチが政策決定の柱となっている。ワンヘルスアプローチについて、皆さんも共有いただき、さまざまな施策に取り入れていただきたい」と要望した。藏内代表は、「オーストラリア獣医師会もシャープ大臣と同じようにバイオセキュリティについて危機感と強い関心を持っておられた。今後、さらに連携を深めて、教育の場でワンヘルスを広げていこうと考えているので、ぜひニューサウスウェールズ州政府のご支援をいただきたい」と要望した。



アナラック・チャンシヴオン NSW州産業大臣と

## 福岡県教育旅行セミナー・交流会 (17:30～18:20)

教育関係者を集め、本県の観光における魅力を紹介する、福岡県教育旅行セミナー・交流会を開催。第1部では、旅行ジャーナリスト等から福岡の魅力を紹介するプレゼンテーションを実施。香原議長は、「福岡県は服部知事とともにワンヘルスという、人と動物、環境の健全性を一体的にとらえていく活動を行っている。ニューサウスウェールズ州にも環境や動物、生命体などのカリキュラムがたくさんあると聞いた。ぜひ、ワンヘルスを通して両州県の子どもたちがつながっていくカリキュラムができればと願っている。」と挨拶した。



香原議長挨拶



セミナーの様子

## ニューサウスウェールズ州関係者との意見交換会（18：30～20：30）

西田雄一郎在シドニー日本国首席領事、渡邊尚之ジェトロ・シドニー事務所長、ラグビー元オーストラリア代表のニック・ファー・ジョーンズ氏等、ニューサウスウェールズ州関係者と意見交換を行った。

香原議長は「福岡県議会とニューサウスウェールズ州の歴史を紐解けば、永倉会長夫妻とニック・ファー・ジョーンズ様、たくさんの方々が結んでいただいたご縁。カウラでの慰霊式典はとても格式高く、永倉会長が様々な苦難を乗り越え構築されてこられたニューサウスウェールズ州との関係を、我々は次世代に繋いでいく使命がある。県議会としても、藏内会長を先頭に、関係をしっかりと構築していかなくてはならない。皆様方の福岡県に対し今後一層の支援をお願いしたい。」と挨拶した。



（香原議長挨拶）



（堀大助代表代理挨拶）



（樋口明議員挨拶）



（NSW州ラグビー協会ポール・ダーン氏）



（ニューサウスウェールズ州関係者の皆様と）

## 参加者

◇ニック・ファー・ジョーンズ氏

オーストラリア・NSW州出身

元ラグビーオーストラリア代表。(ポジション：スクラムハーフ)

1991年ラグビーワールドカップ大会では決勝戦でイングランド代表を破り、オーストラリア代表を優勝に導いた。

永倉財団理事

◇ポール・ダーン氏

NSW州ラグビーフットボール協会CED

ワラターズ (AUSプロラグビーチーム) CED

◇平木 万也氏

自治体国際化協会シドニー事務所長

◇渡邊 尚之氏

独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO) シドニー所長

8月7日(水)

**MCI Carbon (エムシーアイ・カーボン) 社訪問** (10:30~12:25)

#### ◇施設概要

「二酸化炭素固定化技術」を保有。工場から排出される二酸化炭素を石炭灰等に反応させ、固定化し、炭酸カルシウムを生成させる。生成された炭酸カルシウムは、建材やセメント等の原料となる。

同技術を用いて、石油、天然ガス、石炭等の化石資源から生成される「グレー水素」の生成段階で排出される二酸化炭素を固定化（回収・処理）することにより、「ブルー水素」の生成が可能となる。

2013年に大手鉱業用化学薬品製造企業のオリカ社と、脱炭素企業のグリーンマグ・グループにより設立された。同社には伊藤忠商事、みずほ銀行、三井住友銀行なども出資。2021年にはオーストラリア政府から1,460万オーストラリアドル（約15億5千万円）の助成金が支出されている。

2015年から、ニューカッスル大学で年間100トンの生産能力を持つ試験施設の運用を開始。2026年に同技術の商業化を目指している。

(MCI カーボン HP 引用)



#### ◇視察内容

ニューサウスウェールズ州の水素拠点となるニューカッスルに位置する MCI Carbon (エムシーアイ・カーボン) 社を訪問。伊藤忠豪州会社社長及びシニアマネージャーも同行し、視察を行った。

工場から排出される二酸化炭素を石炭灰等に反応させ、固定化し、炭酸カルシウムを生成させる技術を持つ企業。生成された炭酸カルシウムは、建材やセメント等の原料とな

る。ニューカッスル大学エネルギー資源研究所（NIER）に設置されている同社の実証プラントを見学、意見交換を行った。



(MCI カーボン社を視察)



(事業の説明)



(工場内を視察)



(カーボンプラントを視察)

## ORICA（オリカ） 社社訪問（13:10～14:30）

### ◇アンモニア製造プラント概要

オリカ社はビクトリア州に本社を置く、産業用・工業用の爆薬の製造・販売等を主軸とする鉱業用化学薬品製造企業である。

同社はNSW州ニューカッスルにアンモニア製造プラントを設置しており、同地では豪電力ガス供給大手のOrigin Energy（オリジン・エナジー）社とともに、グリーン水素製造に向けた「ハンター・バレー・水素ハブ・プロジェクト」を進めている。

同プロジェクトはニューカッスル港で年間5,500トンのグリーン水素を製造するもので、その水素はオリカ社のアンモニア製造プラントへ供給される（アンモニア製造には水素が必要）。2023年7月には豪州連邦政府が同プロジェクトに7千万豪ドル（約75億円）の助成金を給付することが明らかになった。

（オリカ社 HP 引用）



### ◇視察内容

ニューサウスウェールズ州の水素拠点となるニューカッスルに位置するORICA（オリカ）社を訪問。

ビクトリア州に本社を置く、産業用・工業用の爆薬の製造・販売等を主軸とする鉱業用化学薬品製造企業で、ニューカッスルにアンモニア製造プラントを設置している。ここで、オーストラリア電力ガス供給大手のオリジン・エナジーと共にグリーン水素製造に向けた「ハンター・バレー・水素ハブ・プロジェクト」を進めている。事業の説明を受けるとともに、アンモニア製造プラントを見学、意見交換を行った。



(事業の説明)



(アンモニア製造プラント見学)



オリカ社の皆様と

## ◇訪問団に参加して

### 【議会代表者 所見】

今回、2度目のカウラ市を訪問であり、80年前に発生した日本人捕虜大脱走事件について改めて学ぶ機会を得た。カウラ日本人戦争墓地やナガラパークを訪問し、当時の大脱走の経緯や「メイ・ウィアー婦人と脱走日本人捕虜」のエピソードについて説明を受けた。これらを通じて、戦後長年にわたり日本人捕虜の慰霊と日豪友好に尽力してきたカウラ市民の温かい心に触れるとともに、平和の尊さと不戦への思いを改めて強く胸に刻んだ。こうした歴史と友好の歩みを広く県民へ伝えていくことの重要性を強く感じた。

ニューサウスウェールズ州関係者との意見交換において、ラグビー界のレジェンドであり、1991年の第2回ラグビーワールドカップにおいてオーストラリア代表キャプテンとしてチームを優勝に導いたニック・ファー＝ジョーンズ氏にもご参加いただいた。ニック氏は2009年に、ラグビーワールドカップ日本大会開催が決定する前から藏内勇夫自民党県議団代表と長年にわたり深い親交を築いており、その信頼関係と継続的な交流が2019年ラグビーワールドカップ日本大会の誘致成功の一助となった事に加え、福岡県での試合開催の実現にも大きく寄与している。また、2017年にはニック氏より福岡県内でラグビークリニックが開催されるなど、スポーツを通じた国際交流や次世代育成にも大きく貢献。こうした人と人との交流の積み重ねが、国際的なスポーツ大会の開催や地域振興を実現する重要な原動力となることを再認識した。

今回の訪問は、教育、観光、エネルギー、国際交流など多岐にわたる分野について学ぶ大変有意義な機会となった。カウラ市における平和教育や歴史継承の取組、水素エネルギーをはじめとする先進的な施策、さらにはスポーツや人的交流を通じた国際連携の重要性など、多くの示唆を得ることができた。今回築いたネットワークと得られた知見を一過性のものとすることなく、平和教育の推進、国際交流の拡大、次世代人材の育成、脱炭素社会の実現に向けた取組などに活かし、福岡県のさらなる発展につながる政策として県政へ反映していきたい。

### 【参加者 所見】

今回、カウラ日本人捕虜脱走80周年記念慰霊式典をメインに、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州を訪問したが、この脱走事件における両国の認知の差を実感した。記念慰霊式典におけるカウラ市民の対応は、戦後80年たった今でも、自国民だけでなくすべての犠牲者に対する思いやりに溢れており、日本国内でのこの事件の認知の低さについて実感するとともに、我々議員が県民、特に戦争を知らない若い方々に伝えていく責任を実感させられた。

教育の面では、多様化、多国籍化が進んでいく中で自治体が果たす役割を再確認するとともに、議会における今後の検討課題の一つとし、特別委員会においても議論していく必要性を感じた。

州政府への訪問では、外国人に向けた教育、クリーンエネルギーである水素分野、そして本件が推進するワンヘルスについて議論を深めることができた。福岡県とニューサウスウェールズ州との連携や今後の取り組みを県議会としていかに後押ししていくかを、今後議論していきたい。

<参考>

オーストラリア・NSW州に関連する質問

- ・令和6年12月定例会 代表質問（中尾 正幸 議員）
- ・令和6年9月定例会 一般質問（板橋 聡 議員）
- ・令和2年2月定例会 予算特別委員会（渡辺 勝将 議員）

<参考>

福岡県とNSW州との交流に係るこれまでの成果

**水素分野**

○福岡県・NSW州「水素における協力促進に関する覚書」締結(R5.11.27 調印)

両地域における販路拡大や投資機会拡大のため、双方の地域の企業が参加する共同セミナーの実施、展示会やシンポジウムへの相互出店のサポートを通じてビジネスマッチングの支援を行う。

**スポーツ分野**

○ラグビー協議における覚書締結（R4.10.7 締結）

ラグビーの普及、並びに競技力向上に向けた相互協力。特に、①青少年のラグビー競技力向上に関する事、②女子ラグビーの交流に関する事、③ラグビー指導者の育成に関する事、において緊密な交流・協力を継続的に行う。

○野球競技における基本合意書締結（R5.8.4 締結）

野球の普及、並びに競技力向上に向けた相互協力。特に、①青少年の野球競技力向上に関する事、②女子野球の普及・振興に関する事、③野球指導者の育成に関する事、④その他両国の友好に関する事、において緊密な交流・協力を継続的に行う

○水泳競技における覚書締結

水泳の普及、並びに競技力向上に向けた相互協力。特に、①青少年の水泳競技力向上に関する事、②女子水泳の普及・振興に関する事、③水泳指導者の育成に関する事、において緊密な交流・協力を継続的に行う

そのほか、福岡県とオーストラリア・ニューサウスウェールズ州との交流については、福岡県のホームページに掲載されている。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/nsw-australia.html>

**福岡県・ニューサウスウェールズ州交流促進訪問団派遣事業  
スケジュール 【3泊6日】**

日程	時間	行程
1 8月3日 (土曜日)	18:00 18:10-18:30 19:10 21:00 22:45	集合(福岡空港国内線1階ANAカウンター) 出発式 福岡発 NH268 羽田着 羽田発 NH879  機内泊
2 8月4日 (日曜日)	9:25  16:30頃 17:30-18:00 18:30-21:30	シドニー着  <カウラへ移動(約300km/5時間+1時間)> ホテルチェックイン(着替え等) サブロー・ナガクラ・パーク訪問 80周年記念式典:カウラ市長主催公式夕食会  カウラ泊
3 8月5日 (月曜日)	(1:30) 9:30-11:00 11:30-12:30  昼 19:00-21:00	(捕虜収容所での追悼イベント) 80周年記念式典:オーストラリア人・日本人戦争墓地 献花式 80周年記念式典: May Weir Memorial Morning Tea (カウラ日本庭園)  <シドニーへ移動(約300km/5時間+1時間)> シドニー福岡県人会との意見交換会  シドニー泊
4 8月6日 (火曜日)	9:30-11:00 11:30-14:00 14:30-15:00 15:30-16:00 17:30-20:00 18:30-20:30	セントラル・シドニー・インテンシブ・イングリッシュ・ハイスクール訪問 福岡県観光セミナー・交流会(旅行代理店、メディア等対象) NSW州教育省訪問 NSW州産業貿易大臣及びエネルギー環境大臣表敬訪問 福岡県教育旅行セミナー・交流会(学校関係者対象) 関係者との意見交換会  シドニー泊
5 8月7日 (水曜日)	8:00  10:30-12:25 13:10-14:30 14:30  17:00頃 20:55	ホテル出発 <シドニーからニューカッスルへ移動(約160km/2-2.5時間)> エムシーアイ・カーボン社訪問 オリカ社訪問 <ニューカッスルからシドニーへ移動> ホテル到着 シドニー発 NH880  機内泊
6 8月8日 (木曜日)	5:45 7:35 9:25	羽田着 羽田発 NH241 福岡着